

## 古川高校同窓会事業

## 国際教育研修（グローバル・スタディズ・プログラム）の実施報告

今年度も昨年度に続き、令和5年3月30日(木)から3日間、古川高校蛭雪会館3階にて古川高校生34名（1年生徒20名2年生徒14名）が参加して、国際教育研修グローバル・スタディズ・プログラムが開催されました。今年度は、古川高校同窓会からご支援をいただき、同窓会事業として開催させていただきました。外国人留学生6名、ファシリテーターとして外国人講師1名の合計7名が来校し、午前9:00から午後4:00まで、外国人留学生とはもちろん、参加生徒同士も、英語で様々な話題について意見を交わし、プレゼンテーションを行い、最終日には一人ひとりがみんなの前でスピーチをしました。

1日目。開講行事では古川高校同窓会から副会長の望月さんにご臨席を賜り、激励のご挨拶をいただきました。グローバル社会に対応した人材育成を念頭に、同窓会としても古川高校生に有意義な経験をしてもらい、大きく成長することを期待しているとお言葉をいただきました。続いて生徒代表で山添大樹君が決意表明を行いました。支援いただいた同窓会への感謝の気持ちと、積極的にこのプログラムに取り組むことによって、英語力の向上はもちろん、リーダーシップやコミュニケーション能力の向上を目指して努力する決意を表明していました。

その後、ファシリテーターと留学生が登場し、ベテランファシリテーターの元気な勢いに圧倒されながら、グループリーダーを務める留学生によるアイスブレイクが行われ、一気に英語で話す雰囲気になりました。事前オリエンテーションや事前ガイダンスで、昨年の参加者の話を聞いたり、事業者から昨年度の様子を聞いたりしていた今年度の参加生徒は、初日から積極的でした。あっという間に、前向きに英語を使ってプログラムに取り組もうという雰囲気が満ちあふれ、ファシリテーターも意欲的な生徒に驚いていました。

生徒5~6人のグループに1人の留学生がリーダーとなり、ファシリテーターの指示に従って、グループごとに意見を申し合います。ファシリテーターが言っていることが分からなかったり、言いたいことがうまく英語で表現できなかったりしても、リーダーが分かりやすくフォローしてくれていました。また、生徒の心を解きほぐしながら、生徒の意見を引き出していました。



昨年度同様、リーダーたちの夢とその実現に向けた自己紹介プレゼンテーションを聞き、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びました。また、グループごとにpositive thinkingについてディスカッションが行われました。Don't be afraid of mistakes!という言葉や、positive thinkingの大切さを学び、生徒たちは英語で自分の意見を伝えようと頑張っていました。

特に、昨年度と違っていた点は、休み時間の過ごし方でした。今年度は休み時間になっても留学生たちが控え室に戻ることなく会場にいてくれました。もしくは、初日から生徒が休み時間に留学生に積極的に話しかけたので戻れなかったの

かもしれません。ためらうことなく積極的に話しかけ、サインをもらったり、留学生の母語について質問したりしていました。中には、留学生に漢字で表記した名前をプレゼントした生徒もいました。留学生たちは、古川高校生の英語を使おうとする意欲、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢に驚かされていました。

2日目。グループリーダーによる楽しいウォームアップが行われ、ファシリテーターに雰囲気盛り上げてもらいながらプログラムが始まりました。リーダーはトピックごとに担当するグループが変わります。生徒たちは、色々な背景を持ったリーダーたちと話しながら、生徒たちも自分自身について理解を深め、他者の見方に縛られている自分に気づき、少しずつ自分を解き放っていました。他者を受け入れるためには自分を受け入れる必要があること、他人の評価は自分ではコントロールできないんだから、気にしなくて良いことなどを、ディスカッションを通して学び、生徒たちは自分を信じるということができるようになっていったようです。午後からは、将来の目標について話し合い、その実現のために学ぶということについてディスカッションしました。はるばる遠く日本に来て、自分の夢の実現のために努力を続けているリーダーたちの言葉は、今後、自分の夢実現のために努力しなければならないと自覚している生徒たちの心を、より強くしてくれたようです。



3日目。午前中、ファシリテーターからSDGsについての質問形式の講義を聞き、その後、発展途上国出身のリーダーから現地の実情を聞きながら、取り組むべき目標と具体的な行動についてグループで話し合いました。話し合った内容は、リーダーからアドバイスをもらいながら、スキット(寸劇)という形で発表しました。

午後からは、最終ゴールである一人ずつのスピーチに向けて準備とその発表です。3, 2, 1, clapを合図に、留学生が大いに盛り上げてくれる中、ほとんどの生徒がマイクを使わずに、大きな声でこのプログラムを通して学んだことや将来の夢、参加者やリーダーへの感謝の言葉、学んだことを将来忘れずに進んでいく覚悟など、みんな堂々と自分の言葉で語っていました。昨年度はうまくコミュニケーションできなかったことを悔しく思っていた生徒が、自分を乗り越えるために今年度も参加し、周囲も認めるほど立派に成長した姿を見せてくれたことに感動しました。

最後のクロージングセレモニーではグループごとに一人ずつに修了証が渡され、お互いの健闘をたたえて大きな拍手が巻き起こりました。生徒はリーダーたちと写真を取り合い、最後まで笑顔と英語が飛びかう3日間でした。

昨年度も感じましたが、古川高校生が持つ潜在能力は高いものがあります。今年度もこのプログラムを通してそれがどれほどなのかを見ることができました。特に、昨年度以上に、初日の休み時間からほとんどの生徒が留学生に話しかける姿が印象的でした。ファシリテーターやリーダーたちもその積極性と基本的な英語力の高さに驚いていました。普段の英語の授業で、英語を使う機会を多く設け、発信力を向上させようと積み重ねてきた成果が出てきたのだとも感じました。今回参加した生徒には、このようなプログラムの時に限らず、普段の授業、部活動、学校行事の時に、高い意識を持って、外国人留学生が果たしていたリーダーのような役割を担ってほしいと願っています。



最後に、同窓会からは多大なご支援をいただきました。そのおかげで参加が可能になった生徒、参加に踏み切った生徒も多数いました。古川高校同窓会の皆様には、心から感謝を申し上げます。参加した生徒は感謝に気持ちを忘れずに、大きな期待をかけていただいているからこそその多大のご支援だということを中心に留め、この経験を今後の学校生活、人生に活かしてほしいと思います。また、このプログラムの様子や学んだことを周囲に伝え、このプログラムが今後も継続していくよう働きかけてもらいたいと思います。